

留学報告書

2025 年 8 月

立石 泰佳 (たていし やすか)

University College London

ウガンダ訪問 (7 回目)

今年の 2 月下旬から 3 週間弱、ウガンダに滞在しました。今回で 7 回目の訪問となります。これまで Uganda Revenue Authority (URA) という税務署に相当する組織が保有しているデータの分析が主な目的でしたが、今回はそのデータから企業を抽出し、アンケート調査をするための準備を行いました。URA の担当者や現地の調査会社とのミーティングを経て、無事に企業調査を行うための見通しを立てることができました。

これまでの渡航では URA のデータ分析を通じて、豪雨の際に企業売上が減少し、そのショックが取引関係を通じて波及することが分かっていました。しかし、その背後にあるメカニズムについて既存のデータだけで解き明かすことは困難でした。そこで、自ら質問票を作成し、企業にアンケート調査を行うことで論文のモデル構築につなげたいと考えています。まだ各方面との調整中ではありますが、順調に進めば 9-10 月にパイロット調査を行い、来年 1 月に本調査を行う予定です。初めての試みで上手くいくかわかりませんが、PhD を始めた当初から途上国で自らデータを取ることを目標にしてきたので、資金調達や現地でのネットワークづくりも含めて挑戦できていることに達成感があります。しかし、今後はこの調査結果をもとに job market paper を執筆する予定なので、どう転ぶだろうかという不安でいっぱいです。

また、ウガンダで新たにインパクト評価のプロジェクトを始める話に誘っていただき、現地の視察にも行きました。これまでの渡航ではほとんどの時間を首都カンパラで過ごしていたので、今回は地方を訪れる貴重な機会となりました。詳細はプロジェクトが進展してから改めて報告したいと思いますが、農村部で画期的な技術が導入されて目に見える効果を確認でき、今後研究に取り組むのがとても楽しみになりました。

これまでカンパラでは、Yale 修士課程の同級生 2 人がいたため、頻繁に食事に誘ってもらったり、週末に地方へ旅行に出かけたりしていたのですが、2 人ともこの夏でウガンダを離れてしまいました。また、一緒にテニスをしている日本人も次々とカンパラを離れ、親しくしていた青年海外協力隊の方々の任期も終わりに近づき、とても寂しく感じています。

学会発表

この半年間は複数の学会で発表の機会があり、自分の研究をアウトプットすることができました。まず、5 月上旬にはベトナムの海外直接投資 (FDI) に関するプロジェクトについて、共著者でもある指導教官が UCL 学内で発表することになり、4 月はその分析に追われていました。

おかげでこれまでゆっくりと進めていたプロジェクトが一気に加速しましたし、セミナーでは多くのコメント・フィードバックをもらい、良い機会となりました。また、このプロジェクトの共著者である PhD の友人（兼フラットメイト）が博士論文の一章をこのペーパーとし、審査員の先生方からとても好評だったと聞いたのも励みになりました。

続いて、5 月中旬には LSE の environment camp という PhD 向けの学会に参加し、ウガンダの研究を発表しました。当日の朝に Overleaf がダウンしてしまいスライドを編集できない危機的な状況だったのですが、私の発表が夕方だったのと、昼にはサーバーが復旧していたので事なきを得ました。しかし他の発表者に Overleaf がダウンして大変だったね！と話しかけると、全員そうだったんだ？という反応で、当日朝までスライドを編集していたのは私だけだったのかと思いました。ちゃんと用意周到に準備をするようにしなければ、と肝に銘じました（と言いつつ、その後の学会でも当日まで編集しました…）。発表自体は無事に終え、コメントも多数もらうことができました。

さらに、8 月初旬には同志社大学で開催された Kyoto Summer Workshop in Applied Economics に呼んでいただき、中旬には韓国での Econometric Society World Congress (ESWC) で発表する機会がありました。同志社では豪華な発表者に囲まれ、質問やコメントも質が高く、普段はなかなか会えない先生方と 3 日間連続で話すことができたのが楽しかったです。今後も声をかけてもらえるように面白い研究をし続けたいと思いました。ESWC は経済学のすべての分野をカバーしている 5 年に 1 度の大規模な学会で、40 以上のパラレルセッションがあり、2000 人以上の参加者がいたそうです。参加者が多すぎて誰が来るのか全く把握していなかったのですが、コーヒープレイクの会場などで久々に会えた人も多く、いつの間にか経済学のコミュニティで知っている人が増えたのだなあと感慨に浸りました。UCL から PhD の仲間や先生も多く来ていて、ソウルで一緒にご飯を食べたのも特別感があり楽しかったです。また、私が発表したセッションは人数は少ないながらも似た分野の発表者も参加していて、フィードバックも多くもらうことができたのが大きな収穫でした。

そして ESWC の 1 週間後にはドイツのリンダウという街で開催されたノーベル賞受賞者会議に参加しました。経済学のノーベル賞受賞者が 15 名参加し、それぞれの講演を聞くだけでなくランチなどでインフォーマルに会話する機会も得られました。世界中から集まった PhD の学生、ポスドク、若手の講師たちとお互いの研究の話をすることもできたのが楽しかったです。朝から晩まで予定が詰まっていた長いイベントでしたが、良い刺激となりました。

このように書くと学会応募に成功しているようですが、不採択となったものも多くあります。よりレベルの高い学会に採択され、最終的には良いジャーナルに引っかかるようになるにはどうすればいいのか、苦しみながら模索する日々です。

来年度の予定

10月から来年5月頃まで Harvard 大学に visiting student として在籍することになりました。仲の良いフラットメイトが Berkeley に1年間 visit した際に私も遊びに行ったのがきっかけで、私自身もアメリカの大学に visiting をしたいと考えていました。冬に指導教官に相談し、大学選びには紆余曲折もありましたが、最終的には Harvard の先生から歓迎していただき、受け入れが決まりました。ただ、visiting の話が決まった直後からトランプ政権による学生ビザの停止や、大使館でのビザ面接の停止があり、事務手続きが大幅に遅れてしまいました。先行きが分からない状態で夏の予定を決めるしかなく落ち着かない日々を過ごしていましたが、ようやく必要書類も届き、大使館での面接を経てビザが承認されました。秋学期の始まりには間に合いませんが、10月からのボストン／ケンブリッジでの生活を楽しみに準備を進めているところです。

ただ、この夏の予定は移動ばかりで多忙を極めています。7月末にロンドンの家を引き払い荷物をストレージに移してから、日本・韓国・ドイツでの学会参加に加えて、ロンドンでのビザ申請、ウガンダでのパイロット調査をして、ようやくボストンに飛ぶ予定です。日本とイギリスも含めて、2か月半で4大陸8か国に行く計算になってしまいました。さらに、荷物の入れ替えや衣替えをするために毎回1〜2泊だけロンドンに戻っており、とても目まぐるしい日々を過ごしています。5月のハーフマラソンで膝を痛めて以来、(膝が治ってからも)ランニングの習慣も疎かになっているので、しっかり体力をつけて挑みたいと思っています。

その他

3月末にはロンドンで開催された米津玄師のライブに行くことができました。10年来好きなアーティストの生演奏をまさかロンドンで聴けるとは思わず、感動もひとしおでした。



米津玄師のライブ



ウガンダの美味しいビール